

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8355
担当部課名	保健福祉部	障害福祉課		
事務事業名	障害者一時ケア事業補助金		事業コード	11310

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第3節	障害者の自立支援と社会参加	~63 年度
施策名	第1施策	自立した生活を実現するための環境づくり	

2 実施根拠及び関連法令等

相模原市障害者一時ケア事業補助金交付要綱

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
障害児者の保護者や家族等が地域活動、通院及び休養等のために、家庭内での介護が困難となった場合に、障害児者を一時的に介護する「障害者一時ケア事業」を実施する団体に補助金を交付することにより、障害児者のいる家庭を援護する。		市内「障害者一時ケア事業」実施団体	
		対象数	3団体
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
1 もみの木ホーム 延べ利用人数 1,062人 (デイケア・ナイトケア合計) 2 ふれあいデイホーム 延べ利用人数 769人 3 ヘルピングハンズ 延べ利用人数 1,392人 平成13年度決算(千円)... 25,188 <内訳>・もみの木ホーム(デイケア) 8,200・ (ナイトケア) 4,786・ふれあいデイホーム 4,002・ヘルピングハンズ 8,200		「相模原市障害者福祉計画」の中で、「レスパイト等家族支援の充実」と位置付けられている。	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	相模原市障害者福祉計画
		計画年次	10年度~22年度
		家庭において介助が困難な場合に、障害者及び介助者に配慮しながら、介助者の休息(レスパイト)のため、身近な場所で、気軽に施設の利用ができるよう事業を充実する。	

4 評価指標

指標名	一時ケア事業実施率(もみの木ホーム)	一時ケア事業実施率(ふれあいデイホーム)	一時ケア事業実施率(ヘルピングハンズ)
指標式	延べ利用者数(実績)/前年度延べ利用者数×100	延べ利用者数(実績)/前年度延べ利用者数×100	延べ利用者数(実績)/前年度延べ利用者数×100
指標設定の意図	前年度の延べ利用者数に対する延べ利用者数の実績における事業実施率	前年度の延べ利用者数に対する延べ利用者数の実績における事業実施率	前年度の延べ利用者数に対する延べ利用者数の実績における事業実施率

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	195	105	a 57	b 100	100	
指標	90	80	c 120	d 100	100	
指標	121	95	e 83	f 100	100	
事業費	決算(予算)額	25,316	25,898	25,189	27,437	27,393
	人員・時間数	(0.3人)	(0.3人)	(0.3人)	(0.3人)	(0.3人)
	人件費	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400
	その他経費					
	合計	27,716	28,298	27,589	29,837	29,793
特定財源						

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 86.7%	
	B:一部達成していない(100%> 80%)		
	C:達成していない (80%>)		
a	$\frac{57.0}{100.0} \times 100 = 57.0\%$	c	$\frac{120.0}{100.0} \times 100 = 120.0\%$
b		d	
e	$\frac{83.0}{100.0} \times 100 = 83.0\%$	f	
理由:	前年度まで行っていた送迎サービスを中止したことで、当初利用人数の減少がみられた。しかし、事業実施団体において、代替するサービスの利用を行った結果、利用者の増加につながったため、今後は利用者の増加が見込まれる。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A:適応している	理由:	障害者と共に生活している保護者や家族等が一時的に障害者を預け、地域活動や通院、休養等をするには必要なことであり、身近にサービスを提供することのできる本事業は、今後も重要な役割を担うものである。
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A:妥当である	理由:	送迎サービスを中止し、代替するサービスを利用することにより、コストを削減することができ、効果を上げることができた。今後は、より利用しやすい施策の検討が必要と思われる。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A:代替の可能性ない	理由:	国や県で定められた事業ではないが、家族支援の面から、本事業は有効であり、身近な場所でサービスを受けることができるよう、今後も市が補助をしていく必要があると思われる。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A:満足できる	理由:	ナイトケア施設が市に1ヶ所(市内北部)しかないため、市内南部の利用者にとっては一部満足できない部分がある。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A:有効である	理由:	障害者が、地域や社会の中で安心して生活できる社会を作るためには、その保護者や家族を支援することも必要であり、当該事業は、有効に機能している。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明:</p> サービス提供体制を充実させることにより、利用しやすい環境を作ることができ、成果を上げることができると思われる。
	<p>コスト改善余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	<p>説明:</p> 本事業は、緊急一時的に障害者を預ける受け皿としての役割を担っている。コストを下げることは実施団体の経営自体を圧迫してしまう。

7 総合評価

評価	AAA ▼	他自治体の類似事業との比較	国や県の基準に定められた事業ではなく、市費でまかなわなければならないため、必要があっても実施に至らない自治体が多い。
今後の進め方		説明	障害者が、地域や社会の中で安心して生活できる社会を作るためには、その保護者や家族の支援を無視することはできない。身近な場所で障害者を一時的に預け、家族等が地域活動や通院、休養等をするにより、障害者の生活を側面からサポートする事業として有効であると思われる。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--